



お元気ですか

平成30年7月

知っておきたい！胃がん！

胃がんは日本人に多く発生しているがんで、40歳代から増加傾向にあり、60歳代でピークを迎えます。男女比はほぼ2：1と、男性に多くみられます。



胃の内側の粘膜から発生します

胃がんとは「胃の内側の粘膜から発生する悪性の腫瘍」で、タバコや飲食物中に含まれる発がん物質、熱い食べ物による熱刺激、ヘリコバクターピロリ菌などによって引き起こされる慢性胃炎など、さまざまな原因が積み重なって発生するものと考えられています。粘膜から発生したがんが増殖すると胃の内側に突き出たり、胃壁深くまで進み、胃壁を突き抜けて他の臓器などに転移することもあります。このほか「スキルス胃がん」という、胃の壁にしみこむように広がる早期発見が困難なタイプがあり、胃がん全体のおよそ10%を占めます。

ピロリ菌と胃がんの関係とは？

ヘリコバクターピロリ菌とは胃の粘膜に感染する細菌で、日本人の場合、40歳以上で約7割の人が感染しているといわれています。ピロリ菌は胃炎や胃潰瘍といった、胃がんの原因となる疾患を生み出すとされていますが、ピロリ菌自体に発がん作用があるかどうかはまだ研究中です。

塩分過多・喫煙が大きく関係します

塩分と胃がんの関係は深く、実際、塩分摂取量の多い地域では胃がんの発症率が高いというデータもあります。また、喫煙、飲酒、魚・肉類の焦げた部分や熱過ぎる飲食物なども発症原因の1つと考えられています。

早期に自覚症状がある胃がんは半数程度

みぞおちの痛みなど胃炎や胃潰瘍のような症状から検査を受けたところ、胃がんが見つかったというケースが早期の胃がんの半数で見られます。

胃がんが進行した場合、出血による貧血や、がんによってできる潰瘍のために焼けるような痛みをみぞおちに感じる場合があります。このような痛みがある場合、検査をしないと胃炎や胃潰瘍との区別は難しいのが現状です。



早く見つければ治療効果も高い

昨今、健康診断やがん検診が普及したことから、自覚症状の乏しい胃がんでも早期に発見できるケースが多くなりました。

毎年、胃がん検診をうけましょう！

早期胃がん治癒率は
90%以上！！！！

坂出市母子愛育連合会